



2700人調査！ 第3回 通信制高校卒業生 アンケート調査報告



通信制高校生の社会参画

— 継続的な支援を目指して —

新しい学校の会(略称:新学会)は、2023年度に第3回目となる大規模な通信制高校卒業生アンケート調査を実施しました。調査結果からは、卒業時進路未定だった卒業生のその後を見ると「何もしていない」など苦戦する状況がありました。また、大学や専門学校へ進学した卒業生では進学先の退学が一般学生に比べると高率で、こちらもその後の進路に行き詰まっている様子がありました。

このようなことから新学会では、3年計画により①卒業生アンケート調査の継続と有効な支援機関の開拓・連携、②2014年度に実施した通信制高校在校生・保護者調査(入学動機、学校生活満足度などの調査)の25年度実施を進めていきます。

本稿では、卒業時進路未定者ならびに進学者、就職者で進路変更(退学、退職)のあった人のその後を中心に追っています。

※表中割合欄は小数点二位を四捨五入しています。



調査概要

調査目的

柔軟な学びのできる通信制高校を選んだ卒業生の進路実態を調査し、在校生ならびに卒業生の有用な社会参画の方策を探る。

調査方法

Webアンケート調査及び電話ヒアリング調査(併用)

調査対象

卒業2年後(2021年度卒業生)並びに7年後(2016年度卒業生)の通信制高校卒業生(新学会加盟13校)

有効回答数

合計:2,703人

①卒業2年後卒業生:1,389人 ②卒業7年後卒業生:1,314人

※「卒業後2年後」「卒業後7年後」とは、調査時期の関係で前者は卒業後1年8カ月、後者は6年8カ月程度の時期になります。

実査期間

2023年10月中旬～2024年1月中旬

調査協力

株式会社ライセンスアカデミー



表1 高校生の卒業後進路（2022年度）

進路区分	全日制		定時制		通信制	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
大学等	581,464	61.6%	3,001	17.1%	18,454	24.1%
専門学校	185,950	19.7%	3,782	21.6%	18,695	24.4%
公共職業能力開発施設等	4,662	0.5%	466	2.7%	541	0.7%
進学者合計	772,076	81.7%	7,249	41.4%	37,690	49.2%
就職	132,204	14.0%	7,367	42.1%	14,799	19.3%
進路未定	40,165	4.3%	2,893	16.5%	24,129	31.5%
不詳・死亡	53	0.0%	2	0.0%	6	0.0%
合計	944,498	100.0%	17,511	100.0%	76,624	100.0%

図1 課程別進路未定者比率の推移

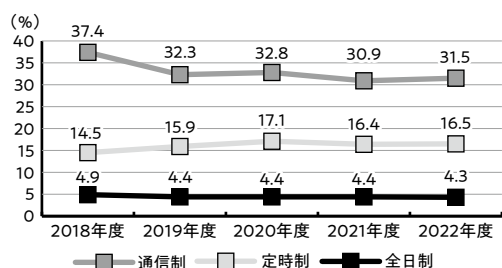
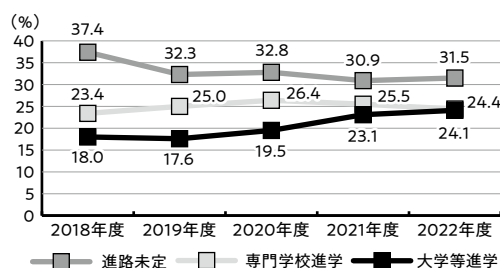


図2 通信制高校卒業後進路の推移



出所: 表1、図1.2とも学校基準調査(文部科学省)

表2 新学会卒業生アンケート調査結果推移

進路区分	2021年度調査				2022年度調査				2023年度調査			
	19年度卒業		14年度卒業		20年度卒業		15年度卒業		21年度卒業		16年度卒業	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
大学※	625	59.8%	344	59.3%	504	25.5%	578	28.2%	463	33.3%	421	32.0%
短大※	—	—	—	—	50	2.5%	73	3.6%	42	3.0%	12	0.9%
専門学校※	—	—	—	—	549	27.8%	561	27.4%	398	28.7%	380	28.9%
公共職業能力開発施設※	—	—	—	—	20	1.0%	12	0.6%	17	1.2%	8	0.6%
就職	179	17.1%	115	19.8%	392	19.8%	539	26.3%	241	17.4%	295	22.5%
留学	7	0.7%	2	0.3%	18	0.9%	2	0.1%	15	1.1%	10	0.8%
進路未定	234	22.4%	119	20.5%	442	22.4%	283	13.8%	213	15.3%	188	14.3%
合計	1,045	100.0%	580	100.0%	1,975	100.0%	2,048	100.0%	1,389	100.0%	1,314	100.0%

※=21年度調査は「進学した」として一括りにしている。23年度調査の「専門学校」は各種スクールを含む

進学率拡大で進路未定率は低下

通信制高校卒業生調査の実施背景は、卒業時に懸念されるものがあることです。それが表1で見る「進路未定者」の割合の高さです。

通信制高校は、全日制、定時制各高校に比較すると進路未定者の割合が高くなっています。通信制高校から次の進路へのステップが踏み出せず、社会参画するための土台が学校生活のなかで培われていないという懸念があります。

第1回調査では、卒業時「進路未定」の卒業生は、その後「何もしていない」層が一定割合存在し、長引く様子がありました。一方で、時系列で「進路未定」比率を見ると改善傾向にあります。図1で見ると2018年度の「進路未定」比率37.4%は、22年度31.5%に下がっています。この改善に貢

献しているのが図2で見る「大学等進学」と「専門学校進学」の各比率アップです。これは、通信制高校各校の進路指導やキャリア教育のたまものと思われます。

通信制高校卒業生アンケート調査の調査対象は、卒業後2年後と7年後の卒業生を対象としています。卒業後2年後の卒業生は少し前までの成人の20歳程度、7年後卒業生はある程度社会で自立・安定しているだろう25歳程度を想定しています。通信制高校卒業後、一定期間のなかで社会参画の状況の変遷を追っています。

表2はこれまで3回に渡って行ってきた調査結果の卒業時進路状況です。通信制高校平均に比べると進学率が高いことで進路未定率は相対的に低くなっています。通信制高校の今後は、この方向に進んでいくと思われます。

卒業時「進路未定」のその後

《2021年度卒業生の経過》

卒業時			卒業から2年間の途中経過			卒業から2年後現在		
卒業時の進路			卒業時進路未定者(213人)の途中経過			途中経過「何もしていない」(75人)2年後		
区分	件数	割合	区分	件数	割合	区分	件数	割合
大学	463	33.3%	大学進学	12	5.6%	在学中	0	0.0%
短期大学	42	3.0%	専門学校進学	5	2.3%	在職中	0	0.0%
専門学校	398	28.7%	就職	18	8.5%	アルバイト	0	0.0%
公共職業訓練校等	17	1.2%	アルバイト	97	45.5%	浪人生	14	18.7%
就職	241	17.4%	何もしていない	75	35.2%	病気療養	8	10.7%
留学	15	1.1%	不明	6	2.8%	何もしていない	48	64.0%
進路未定	213	15.3%	合計	213	100.0%	その他	5	6.7%
合計	1,389	100.0%				合計	75	100.0%

《2016年度卒業生の経過》

卒業時			卒業から7年間の途中経過			卒業から7年後現在		
卒業時の進路			卒業時進路未定者(188人)の経過			途中経過「何もしていない」(85人)7年後		
区分	件数	割合	区分	件数	割合	区分	件数	割合
大学	421	32.0%	大学進学	3	1.6%	在職中	2	2.3%
短期大学	12	0.9%	専門学校進学	2	1.1%	アルバイト	1	1.2%
専門学校	380	28.9%	公共職業訓練校等	1	0.5%	病気療養	2	2.3%
公共職業訓練校等	8	0.6%	就職	66	35.1%	何もしていない	78	90.7%
就職	295	22.5%	アルバイト	31	16.5%	その他	3	3.5%
留学	10	0.8%	何もしていない	85	45.2%	合計	86	100.0%
進路未定	188	14.3%	合計	188	100.0%			
合計	1,314	100.0%						

「何もしていない」が固定する傾向

卒業時進路状況を見ると、2021年度卒業生（調査対象：卒業2年後）の進路未定者は15.3%（213人）、16年度卒業生（同：卒業7年後）は14.3%（188人）でした。通信制高校全体の進路未定者31.5%に比べるとほぼ半分程度の比率となります。

前述の通信制高校全体の傾向でも触れましたが、この背景には大学や専門学校への進学率が反映されています。調査対象校は、大学・専門学校等進学比率が67.3%（21年度卒業生）と、通信制高校平均の49.2%と比べると約18ポイント高くなっているため相対的に進路未定者の比率が低くなっています。

21年度卒業時進路未定者の卒業後2年間の途中経過を見ると、最も多いのは「アルバイト」（45.5%）をしている人たちです。「就職」（8.5%）を足すと半数以上の人働いています。浪人などを経て大学や専門学校へ進学する人も一定数います。この期間は、動きが活発にあるようです。

「何もしていない」という回答は「アルバイト」に次ぐ35.2%（75人）でした。さらにこの回答者75人の2年後現在までを追うと、64.0%（48人）が「何もしていない」という状態でした。

卒業時進路未定→（2年間途中）何もしていない→（2年後現在）何もしていないと回答した人の近況を自由記述回答から見ると、「人と接することが苦手で、バイトや学校などに一歩踏み出せない」という卒業生は母校への要望として「もう少し在学

中の就職活動の支援や補助をしてほしいです」と述べています。「職安に何度も足を運んだが思うような就職先がなく、スーパーのパートで働こうとしたが初日から腹痛で出勤できず、結局未だに働くことができていない」という回答者も「卒業後のアフターケアまで行ってほしい」と母校に要望しています。就職サポートの要望は高いと推測できます。

「進路未定」→「何もしていない」という回答者の2年後現在の回答には「浪人生」が18.7%（14人）となっています。「予備校に通っています」「医学部を目指して浪人中」などで大学受験対策を行っています。また、「病気療養中」の人も10.7%（8人）いました。

16年度卒業時進路未定者の卒業後7年間の途中経過を見ると、最も多いのは「何もしていない」45.2%（85人）という回答です。この85人の7年後現在を見ると、「何もしていない」という回答が90.7%（78人）と高い比率を占めています。現在「何もしていない」という回答のなかにも「求職活動中」「専門学校進学予定」など動きが見られますが、「何もしていない」という状況が自己評価も含めて固定化しています。近況として「卒業後いくつかアルバイト面接を試みるもうまくいかず自信をなくした。未知のこと未経験のことに不安が強く対人緊張もあり思い悩む」という回答者は、母校への要望として「对人的不器用さを理解したうえで、働ける人材へと成長できる人材サポートしている場所の紹介やチャンスがほしい」と述べています。

卒業時「大学進学」のその後

《2021年度卒業生の経過》

卒業時			卒業から2年間の途中経過			卒業から2年後現在		
卒業時の進路			大学進学者(463人)の途中経過			途中経過「退学した」(14人)2年後		
区分	件数	割合	区分	件数	割合	区分	件数	割合
大学	463	33.3%	卒業した	7	1.5%	在学中	3	21.4%
短期大学	42	3.0%	在学中	439	94.8%	在職中	1	7.1%
専門学校	398	28.7%	進学した(大学院等)	1	0.2%	アルバイト	3	21.4%
公共職業訓練校等	17	1.2%	転学した	2	0.4%	何もしていない	6	42.9%
就職	241	17.4%	退学した	14	3.0%	その他	1	7.1%
留学	15	1.1%	合計	463	100.0%	合計	14	100.0%
進路未定	213	15.3%						
合計	1,389	100.0%						

《2016年度卒業生の経過》

卒業時			卒業から7年間の途中経過			卒業から7年後現在		
卒業時の進路			大学進学者(421人)の途中経過			途中経過「退学」(85人)7年後		
区分	件数	割合	区分	件数	割合	区分	件数	割合
大学	421	32.0%	在学中	22	5.2%	在学中	3	3.5%
短期大学	12	0.9%	卒業した	301	71.5%	在職中	38	44.7%
専門学校	380	28.9%	進学した(大学院等)	10	2.4%	アルバイト	8	9.4%
公共職業訓練校等	8	0.6%	転学した	3	0.7%	何もしていない	32	37.6%
就職	295	22.5%	退学した	85	20.2%	その他	4	4.7%
留学	10	0.8%	合計	421	100.0%	合計	85	100.0%
進路未定	188	14.3%						
合計	1,314	100.0%						

※専門学校には各種スクールを含む

進路変更後に次へつながる工夫

卒業時大学進学率を見ると、2021年度卒業生（調査対象：卒業2年後）の大学進学率は33.3%（463人）、16年度卒業生（同：卒業7年後）は32.0%（421人）でした。通信制高校卒業後の進路として大学進学率の高まりが見られますが、両年度を比較してもその傾向があらわれています。

通信制高校全体の大学等（短大進学者を含む）は22年度で24.1%となっていますから、調査サンプルは大学進学率が高くなっています。

21年度卒業時大学進学者の卒業後2年間の途中経過を見ると、最も多いのは「在学中」（94.8%）の人たちです。「退学した」という人は3.0%（14人）となっています。大学退学率は、2～3%とされますからこの間の退学率は大学平均程度と見られます。「退学した」という人の2年後現在の状況を見ると「在学中」と再入学した人や「在職中」「アルバイト」などの動きが見られますが、「何もしていない」という人も42.9%となっています。「何もしていない」人の自由記述回答を見ると「就職先を探している」「Webデザイナーの勉強中」など前向きなものもあります。

一方、16年度卒業時大学進学者の卒業後7年間の途中経過を見ると、「卒業した」という人が71.5%で最も多くなっています。「在学中」という人も5.2%です。さらに大学院等へ「進

学した」人も2.4%となります。

この7年間のうちに「退学した」人は20.2%（85人）と大学退学率に比べるとかなり高い比率になっています。「退学した」85人の7年後現在を見ると、「在職中」という人が最も多く44.7%を占めていますが、次に多いのは「何もしていない」という回答で37.6%となっています。

「在職中」という人の自由記述回答を見ると、「子どもが5歳になり、来年度から中古車販売店開業予定」「フリーランスとして映像編集の仕事に従事」「測量士国家資格合格を目指し現場で経験を積んでいます」「事務職に就き毎日通勤」など活躍している様子があります。

また「アルバイト」9.4%の人たちも「独学で簿記の資格をとり税理士法人でパートとして税理士補助をしています」「起業を目標にしています」「結婚し子どもがいて平日パートで働いています」などの回答が寄せられています。「大学退学」→「在職中」「アルバイト」という人たちはそれぞれの場で充実した生活を目指しているように見られます。進路変更したあとにそれぞれに合った居場所ややりがいにつながる工夫が望ましいと思われまます。

「何もしていない」という人からのコメントは少ないです。「定期的に通院中」という回答者は母校への要望として「これからも不登校生の受け皿になってください」と伝えています。この回答者層の実情を把握することも重要と思われまます。

卒業時「専門学校・各種スクール進学」のその後

《2021年度卒業生の経過》

卒業時			卒業から2年間の途中経過			卒業から2年後現在		
卒業時の進路			専門学校進学者(398人)の途中経過			途中経過「退学した」(46人)2年後		
区分	件数	割合	区分	件数	割合	区分	件数	割合
大学	463	33.3%	卒業した	14	3.5%	在学中	5	10.9%
短期大学	42	3.0%	在学中	337	84.7%	在職中	6	13.0%
専門学校	398	28.7%	進学した(大学院等)	1	0.3%	アルバイト	18	39.1%
公共職業訓練校等	17	1.2%	退学した	46	11.6%	求職・訓練中	2	4.3%
就職	241	17.4%	合計	398	100.0%	何もしていない	12	26.1%
留学	15	1.1%			その他	3	6.5%	
進路未定	213	15.3%			合計	46	100.0%	
合計	1,389	100.0%						

《2016年度卒業生の経過》

卒業時			卒業から7年間の途中経過			卒業から7年後現在		
卒業時の進路			専門学校進学者(380人)の途中経過			途中経過「退学した」(80人)7年後		
区分	件数	割合	区分	件数	割合	区分	件数	割合
大学	421	32.0%	在学中	2	0.5%	在学中	3	3.8%
短期大学	12	0.9%	卒業した	296	77.9%	在職中	42	52.5%
専門学校	380	28.9%	転学した	2	0.5%	アルバイト	5	6.3%
公共職業訓練校等	8	0.6%	退学した	80	21.1%	その他	2	2.5%
就職	295	22.5%	合計	380	100.0%	何もしていない	28	35.0%
留学	10	0.8%			合計	80	100.0%	
進路未定	188	14.3%						
合計	1,314	100.0%						

※専門学校には各種スクールを含む

退学後も働く意欲を持っている

卒業時専門学校(各種スクール含む)進学率を見ると、2021年度卒業生(調査対象:卒業2年後)の専門学校進学率は28.7%(398人)、16年度卒業生(同:卒業7年後)は28.9%(380人)でした。専門学校進学率は、調査対象者で3割弱、通信制高校全体でも20%半ばの比率を占めており通信制高校からの主要な進路となっています。

21年度卒業時専門学校進学者の卒業後2年間の途中経過を見ると、最も多いのは「在学中」(84.7%)の人たちです。一般課程や各種スクールなど1年制の学校では「卒業した」(3.5%)人もいます。「退学した」という人は11.6%(46人)となっています。専門学校退学率は、6~7%とされますからこの間の退学率は専門学校平均の2倍程度となります。

「退学した」という人の2年後現在の状況を見ると「在学中」と再入学した人が10.9%います。学ぶ分野を再検討したものと見られます。自由記述回答を見ると「通信制高校出身だったので専門学校の週5日はきつくて最初から自由度のきく学校選びをしていればよかった」という記述もあります。

退学後「在職中」「アルバイト」「求職・訓練中」を合わせると56.4%が働く方向に動いています。専門学校進学は働くことを意識した学校選びを経ているので感性としても働くことへのハードルが高くないものと推測できます。退学して働いてい

る人の自由記述回答を見ると「自分の行きたい道と違って辞めましたが、今は正社員になるため見習いバイトをしています」「1年通学しましたが方向性が変わりバイトをしながら自分探しをしています」と自身に対する肯定的見方が見受けられます。

退学後「何もしていない」というのは26.1%となっています。「何もしていない」人の自由記述回答は21年度卒業生、16年度卒業生ともに少なくなっていますが「本当に何もしていない」「特になし」などがあります。

一方、16年度卒業時専門学校進学者の卒業後7年間の途中経過を見ると、「卒業した」という人が77.9%で最も多くなっています。「在学中」「転学した」という人も数名ずついます。

この7年間のうちに「退学した」人は21.1%(80人)と専門学校退学率に比べるとかなり高い比率になっています。「退学した」80人の7年後現在を見ると、「在職中」という人が最も多く52.5%を占めていますが、次に多いのは「何もしていない」という回答で35.0%となっています。

「在職中」という人の自由記述回答には「専門学校に進学しましたが対人関係で進めなくなり退学しました。その後結婚。高校卒業資格を持てたことは大きな事で、派遣から正社員へと少しずつですが社会に馴染めるようになってきたと思います」という卒業校への感謝の言葉も見られます。

卒業時「就職」のその後

《2021年度卒業生の経過》

卒業時			卒業から2年間の途中経過			卒業から2年後現在		
卒業時の進路			就職者(241人)の途中経過			途中経過「退職した」(51人)2年後		
区分	件数	割合	区分	件数	割合	区分	件数	割合
大学	463	33.3%	在職中	190	78.8%	在学中	0	0.0%
短期大学	42	3.0%	退職した	51	21.2%	在職中	15	29.4%
専門学校	398	28.7%	合計	241	100.0%	アルバイト	23	45.1%
公共職業訓練校等	17	1.2%				何もしていない	10	19.6%
就職	241	17.4%				その他	3	5.9%
留学	15	1.1%				合計	51	100.0%
進路未定	213	15.3%						
合計	1,389	100.0%						

《2016年度卒業生の経過》

卒業時			卒業から7年間の途中経過			卒業から7年後現在		
卒業時の進路			就職者(295人)の途中経過			途中経過「退職した」(121人)7年後		
区分	件数	割合	区分	件数	割合	区分	件数	割合
大学	421	32.0%	在職中	174	59.0%	在学中	1	0.8%
短期大学	12	0.9%	退職した	121	41.0%	在職中	86	71.1%
専門学校	380	28.9%	合計	295	100.0%	アルバイト	8	6.6%
公共職業訓練校等	8	0.6%				何もしていない	23	19.0%
就職	295	22.5%				その他(主婦)	3	2.5%
留学	10	0.8%				合計	121	100.0%
進路未定	188	14.3%						
合計	1,314	100.0%						

※専門学校には各種スクールを含む

就職で得た知識を次につなげるには

卒業時就職率を見ると、2021年度卒業生（調査対象：卒業2年後）の就職率は17.4%（241人）、16年度卒業生（同：卒業7年後）は22.5%（295人）でした。通信制高校卒業生全体の就職率は、過去5年間の推移を見ると13～16%となっていることから、調査対象者の就職率は高いものになっています。

21年度卒業時就職者の卒業後2年間の途中経過を見ると、「在職中」（78.8%）、「退職した」21.2%（51人）となります。厚生労働省の調べによると新規高卒就職者の3年以内離職率は37.0%とされますから、それに比べると在職率が高くなっています。

「退職した」人の2年後現在の状況を見ると、「アルバイト」45.1%が最も多く、次いで「在職中」29.4%が続きます。「アルバイト」中の人々の自由記述回答を見ると「高卒後入社したところは正社員という初めてのことでストレスがたまり、元々の心の病気が悪化してしまい休みがちになり退職させてもらいました。退職前に本当に自分がやりたかった職業を見つけアルバイトで入りました。今の職場は相談できる人もいて一人で抱え込まずにメンタル的にもよくなりました」という人もいます。「退職した」→「在学中」という人はいませんでしたが、なかには「来年専門学校に進学予定。アルバイトでその資金を

準備中」という人もいます。

一方、16年度卒業時就職者の卒業後7年間の途中経過を見ると、「在職中」（59.0%）、「退職した」41.0%（121人）となります。20代半ばまでに約4割の人が退職しています。

「退職した」121人の7年後現在を見ると、「在職中」という人が最も多く71.1%を占めています。卒業2年後はアルバイトが多かったのに比べるといくつかの変遷を経て20代半ばまでに就職に至った人が多いものと見られます。「アルバイト」は6.6%となっています。

結婚して主婦となったという人もいます。子育てをしながら在職中という人は「結婚して、子育てをしながら仕事をして友だちにも会ったりと日々を過ごしています」という近況と、母校へのコメントとして「私にとって大切な3年間でした。支えてくれる人、心配してくれる人がいるということは嬉しかったです」と伝えています。

「退職した」→「何もしていない」という回答は、16年度卒業生19.0%、21年度卒業生19.6%でほぼ同率となっています。「何もしていない」という回答者には、「退職後派遣で何力所か働いたが、今は無職」というようにそれまでの経験を活かさない場合もあるようです。こういうケースの場合は、それまでに得たスキルや知識を次のステップで活用できるキャリア相談ができる機関や相談者につながると有効ではないかと思われる。

卒業時「短期大学進学」のその後

《2021年度卒業生の経過》

卒業時			卒業から2年間の途中経過			卒業から2年後現在		
卒業時の進路			短期大学進学者(42人)の途中経過			短期大学進学者2年後現在		
区分	件数	割合	区分	件数	割合	区分	件数	割合
大学	463	33.3%	卒業した	1	2.4%	在学中	40	95.2%
短期大学	42	3.0%	在学中	39	92.9%	在職中	1	2.4%
専門学校	398	28.7%	進学した(大学院等)	1	2.4%	何もしていない	1	2.4%
公共職業訓練校等	17	1.2%	退学した	1	2.4%	合計	42	100.0%
就職	241	17.4%	合計	42	100.0%			
留学	15	1.1%						
進路未定	213	15.3%						
合計	1,389	100.0%						

《2016年度卒業生の経過》

卒業時			卒業から7年間の途中経過			卒業から7年後現在		
卒業時の進路			短期大学進学者(12人)の途中経過			短期大学進学者7年後現在		
区分	件数	割合	区分	件数	割合	区分	件数	割合
大学	421	32.0%	卒業した	9	75.0%	在職中	9	75.0%
短期大学	12	0.9%	退学した	3	25.0%	アルバイト	1	8.3%
専門学校	380	28.9%	合計	12	100.0%	その他(主婦)	1	8.3%
公共職業訓練校等	8	0.6%				何もしていない	1	8.3%
就職	295	22.5%				合計	12	100.0%
留学	10	0.8%						
進路未定	188	14.3%						
合計	1,314	100.0%						

※専門学校には各種スクールを含む

卒業時「留学」のその後

《2021年度卒業生の経過》

卒業時			卒業から2年間の途中経過			卒業から2年後現在		
卒業時の進路			留学者(15人)の途中経過			留学者2年後現在		
区分	件数	割合	区分	件数	割合	区分	件数	割合
大学	463	33.3%	在学中	13	86.7%	在学中	12	80.0%
短期大学	42	3.0%	進学した(大学院等)	1	6.7%	アルバイト	1	6.7%
専門学校	398	28.7%	退学した	1	6.7%	何もしていない	1	6.7%
公共職業訓練校等	17	1.2%	合計	15	100.0%	その他	1	6.7%
就職	241	17.4%				合計	15	100.0%
留学	15	1.1%						
進路未定	213	15.3%						
合計	1,389	100.0%						

《2016年度卒業生の経過》

卒業時			卒業から7年間の途中経過			卒業から7年後現在		
卒業時の進路			留学者(10人)の途中経過			留学者7年後現在		
区分	件数	割合	区分	件数	割合	区分	件数	割合
大学	421	32.0%	在学中	2	20.0%	在職中	5	50.0%
短期大学	12	0.9%	卒業した	5	50.0%	在学中	4	40.0%
専門学校	380	28.9%	進学した(大学院等)	2	20.0%	その他	1	10.0%
公共職業訓練校等	8	0.6%	転学した	1	10.0%	合計	10	100.0%
就職	295	22.5%	合計	10	100.0%			
留学	10	0.8%						
進路未定	188	14.3%						
合計	1,314	100.0%						

※専門学校には各種スクールを含む



調査のまとめ

(「何もしていない」への対処を中心に)



1. 通信制高校卒業後進路区分の各段階にある「何もしていない」は、“働く”や“学ぶ”の手前で苦戦している状態と見られる。

- 「どんな仕事をしたいですか?」「何を学びたいですか?」と問われても思い浮かばない。「それが分かれば動いてるよー」という状態。
- 早期離職や退学後に「何もしていない」という空白があると自信を失う場合が多い。自らを“ニート”“ひきこもり”などと否定的に見がち。
- 卒業時「進路未定」の場合、「何もしていない」状態が長引く傾向にある。卒業から2年以内に母校などから交流や情報提供などのアプローチがあると動きやすいのではないかな。

2. 「何もしていない」状態への対処として高校時代から相談・キャリアカウンセリング機関や地域若者サポートステーション（通称サポステ）などにつながる体験学習などがあるといざというときに効果的と思われる。

- サポステは、生徒自らの登録が必要なため意外に利用のハードルが高く在学中に近隣のサポステ（全国177か所）との交流機会があるとよい。講演会、イベント共催など。
- サポステの中にはコミュニケーション講座、資格取得講座、職場体験などを行っているところもあり、これらを利用することも効果的。
- 学校が無料職業紹介の届出を行っていれば卒業生への就職支援ができる。

3. 長いスパンを想定した高校時代からの進路計画作り・見直しを身につける。

- 当面の進路が自分の思いに叶わなかったとしてもいろいろな再構築手順があることをスキルとして身につけられるとよい。
- 専門学校卒業までを想定した“5年計画”、大学卒業までを想定した“7年計画”、20代半ばまでを想定した“10年計画”、30歳前後までを想定した“15年計画”などさまざまなスパンでの計画作りが可能であることを知るトレーニング。